

防衛大学校本科第32期学主及び理工学研究科第23期学生 入校式における学校長式辞（昭和59年4月5日）

本日、防衛大学校本科第32期学生516名及び理工学研究科第23期学生65名の入校式を挙げるに当たり、中村防衛政務次官^{注(1)}、山田海上幕僚副長^{注(2)}、井ノ山統合幕僚会議事務局長^{注(3)}、勝屋航空幕僚副長^{注(4)}、久山陸上幕僚副長^{注(5)}をはじめとする各位、更に地元横須賀市からは、横山市長^{注(6)}、石渡市議会議長^{注(6)}等多数の来賓の御臨席をいただきましたことを、厚くお礼申し上げます。更に全国各地から、御臨席をいただきました父兄の皆様方に対しましても、心からお礼申し上げますとともに、数多くの受験者の中から、見事難関を突破されて来られた御子弟の栄えある入校を、衷心よりお祝い申し上げます次第であります。

本科入校の新生諸君、入校を心からお祝いたしますとともに、自ら志を立て、本日、祖国日本の防衛に身を挺するの気概を秘めてこの式場に参列されたことに対し、衷心より敬意を表し、在校の全教職員、全学生とともに、諸手を挙げて歓迎するものであります。また、シンガポール共和国及びタイ王国よりの留学生6名の諸君に対しましても、心から歓迎の意を表します。

さて防衛大学校の教育の目的は、防衛庁設置法第33条に明示されて



第4代学校長 土田 國保

注(1) 中村喜四郎

注(2) 山田善照

注(3) 井ノ山隆也

注(4) 勝屋太郎

注(5) 久山辰治

注(6) 横山和夫

注(6) 石渡吉男

ありますとおり、「幹部自衛官となるべき者を教育訓練する」ことにあります。すなわち防衛大学校は、現代日本における陸・海・空各自衛隊にあって活躍すべき、幹部を育成するために存在するものであります。この故に、本校の教育は、他の一般大学のそれと共通するものを多く持ちつつも、他の大学には全く見られない特色を有するものであり、諸君は、これから4年の間、防大教育の基本方針に沿って、大いに研鑽・努力を遂げられんことを切望するものであります。

ここに本科学学生諸君の入校に当たり、私は次の三点について諸君に要望いたします。

まず第一に諸君は、今後の己れの人間形成について、幹部たるにはいかにあるべきか、すなわち、真の紳士にして真の武人たるにはいかにあるべきかの追求を大目標とし、諸君の日常生活を支える柱としていただきたい。全学生の規律正しい団体行動、そして団体訓練こそ、本校学生生活の基幹をなすものであります。特に第1学年にあっては、まず形から入ってゆく日常の躰教育と基本訓練から始まるのでありますが、これこそ将来多くの部下の長たるべき幹部としての資質錬成の第一歩なのであります。どうか諸君は、素直な気持でこの雰囲気の中に積極的に飛び込み、そしてなじみ、指導教官や上級生の指導のもとに、幹部候補生たるにふさわしい容儀、態度の持主となってもらいたいのであります。率直に申して、最初の間は環境の変化もあり、精神的、肉体的にも慣れず、戸迷いや困難を感ずることもあると思います。しかし、卒業した1万2千人を超える諸先輩や、在校中の上級生の諸君が、これを乗り越えて来ているのであります。

もとより4年間の学生生活が、単なる他律的強制の下で終始するものではありません。最初こそ他律的に感ぜられる生活環境も、学年がすすむにつれて自主的、自律的要素が重んじられ、その間に己れの個性を磨き、幅広く奥行深い人間形成を遂げることが要請されるのであります。将来、自衛隊幹部たるに最も必要なのは、自制の心と自主積極の精神であります。諸君も、やがて指導される側から指導する側に、自ら率先垂範を要求される立場に立つのであります。どうか諸君一人一人が、この4年間の小原台生活を通じて、見事なる人間的成長を遂げ、個性豊かにして、リーダーシップを発揮できる若人として巣立ってゆかれんことを、切に期待するものであります。

第二に諸君は、学生として、学問の研鑽に本腰を入れていただきたいということでもあります。

現在、世界各国の士官教育は、一般大学の学生以上の知的水準の達成をその目標としております。我が防衛大学校におきましても、文部省の大学設置基準に準拠した理工学系・人文社会学系教育に加えて、防大独特の防衛学教育を主たる学業の内容としているのであります。今や自衛隊の幹部たるには、高度の学識、学力の保持者でなければ、通用しない時代であります。諸君のこれからの勉学が、本物の自衛隊幹部として育ってゆくことに繋がりますよう祈ってやみません。優れた教授体制を擁するこの防大において、受身かつ中途半端な気持で日常を送るには、この4年間はあまりにも貴重すぎるのであります。今後、各教官の指導に従い、真剣に学術の研鑽に努められ、将来の大成の基を培われるよう切望するものであります。

第三に諸君は、課業として所定の訓練、体育に励まれるとともに、必ず何かの校友会活動に参加して心身を鍛え、また、多方面にわたる豊かな文化的情操を養っていただきたいのであります。幹部たるには、いかなる状況下にあっても、あくまで己れが使命を達成し抜く気力・体力の持主でなければならないことは申すまでもありません。時あたかも20歳前後、心身の鍛練には絶好の機会であります。また各般の文化活動についても、多感な青春時代の蓄積こそ、終生の尊き資産となり、将来の更なる成長の基礎となるのであります。そしてこれらの活動を通じて生涯を通じての良き師、良き先輩後輩、そして同期生との絆を結ぶ機会が得られますよう心から祈るものであります。

次に、理工学研究科に入校された諸君に申し上げます。諸君は、このたび特に選抜されて、今後2年の間、本校の研究科において、一般大学の修士課程に相当する高度な科学技術の修得に、専念せられる機会を得られましたことを、心からお慶び申し上げます。

今日まで諸君の多くは、第一線における自衛隊の各種部隊、艦船等にあつて、それぞれ重要な任務を遂行されて来られたのでありますが、他面、学窓を離れて以来、研学の道から遠ざかることを余儀なくされておられたかと存じます。この研究科生活において、諸君は今一度学究生活を送られ、過去において履修されたことを踏まえ、高度な科学技術の研鑽に励まれ、大いなる自信を克ちとられることを信じてやみません。我が国の防衛科学技術の進歩向上が大きな将来の課題となりつつある今日、諸君の精進努力を心から祈念してやまないものであります。

今や桜花爛漫たる春陽の季節を迎えんとするとき、青き海原を眼下におさめる小原台上にあつて、祖国防衛の尊き使命達成のため、第一歩を

踏み出さんとする諸君の健闘を心から祈りつつ、ここに式辞を終るものであります。